

温泉の成分、禁忌症、適応症及び入浴上の注意

成分

1 源泉名及び湧出地

1号泉
大野城市上大利4丁目12-24

2 泉質

この温泉は療養泉に該当しないため、泉質名なし。

3 源泉及び温泉を公共の浴用に供する場所における温泉の温度

源泉 18.7℃ 浴槽 41.0℃

4 pH値(源泉のもの)

6.45

5 温泉の成分(本水1kg中に含有する成分及び分量)

(1)陽イオン

ナトリウムイオン	(Na ⁺)	23.4 mg
カリウムイオン	(K ⁺)	0.7 mg
マグネシウムイオン	(Mg ²⁺)	4.8 mg
カルシウムイオン	(Ca ²⁺)	34.7 mg
ストロンチウムイオン	(Sr ²⁺)	0.3 mg
陽イオン計		63.9 mg

(2)陰イオン

フッ化物イオン	(F ⁻)	0.1 mg
塩化物イオン	(Cl ⁻)	19.2 mg
硫化水素イオン	(HS ⁻)	0.0 mg
硫化物イオン	(S ²⁻)	0.0 mg
チオ硫酸イオン	(S ₂ O ₃ ²⁻)	0.0 mg
硫酸イオン	(SO ₄ ²⁻)	31.0 mg
硝酸イオン	(NO ₃ ⁻)	1.7 mg
リン酸二水素イオン	(H ₂ PO ₄ ⁻)	0.3 mg
炭酸水素イオン	(HCO ₃ ⁻)	120.0 mg
炭酸イオン	(CO ₃ ²⁻)	0.0 mg
陰イオン計		172.3 mg

(3)遊離成分

ア 非解離成分

メタケイ酸	(H ₂ SiO ₃)	72.2 mg
メタホウ酸	(HBO ₂)	0.0 mg
メタ亜ヒ酸	(HA ₃ O ₂)	0.0 mg
非解離成分計		72.2 mg

イ 溶存ガス成分

遊離二酸化炭素(遊離炭酸)	(CO ₂)	67.0 mg
遊離硫化水素	(H ₂ S)	0.0 mg
溶存ガス成分合計		67.0 mg

・溶存物質(ガス性のものを除く) 0.31 g

・成分合計 0.38 g

(4)その他微量成分

総水銀	(T-Hg)	0.0005 mg未満
総ヒ素	(T-As)	0.01 mg未満
銅イオン	(Cu ²⁺)	0.01 mg未満
鉛イオン	(Pb ²⁺)	0.01 mg未満

6 成分に影響を与える項目

- 加 温 : 入浴に適した温度に保つため、加温しています。
- 循環ろ過 : 衛生管理のため、循環ろ過装置を使用しています。
- 消 毒 : 衛生管理のため、塩素系消毒剤を使用しています。

禁忌症、適応症及び入浴上の注意

1 禁忌症

(1) 一般的禁忌症

病気の活動期(特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期

(2) 泉質別禁忌症

なし

2 適応症

当該温泉は、療養泉に該当しないため、適応症なし。

3. 浴用の方法及び注意

※この温泉は浴用として許可を受けたものであり、飲用の許可は受けていないので、飲用しないこと。

温泉の浴用は、以下の事項を守って行う必要がある。

ア. 入浴前の注意

(ア) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。

(イ) 過度の疲労時には身体を休めること。

(ウ) 運動後30分程度の間は身体を休めること。

(エ) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。

(オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。

(カ) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

イ. 入浴方法

(ア) 入浴温度

高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。

(イ) 入浴形態

心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。

(ウ) 入浴回数

入浴開始後数日間は、1日当たり1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。

(エ) 入浴時間

入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3～10分程度とし、慣れてきたら15～20分程度まで延長してもよいこと。

ウ. 入浴中の注意

(ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。

(イ) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。

(ウ) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

エ. 入浴後の注意

(ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。)

(イ) 脱水症状等为了避免するため、コップ一杯程度の水分を補給すること。

オ. 湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日～1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

カ. その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

温泉の分析年月日	平成26年4月28日	決定年月日	平成26年9月17日 (源泉の分析結果に基づき決定)
分析機関 (株)シー・アール・シー食品環境衛生研究所 (福岡県登録第6号)		決定者	福岡県